

気候変動により想定される主な機会

影響度： 大：業績への影響が大きくなりうるもの（100億円以上）  
 中：業績への影響が大きくなりうるもの（10億円以上100億円未満）  
 小：業績への影響が小さいもの（10億円未満）  
 緊急度： 高：1年以内  
 中：5年以内  
 低：5年超

シナリオ	分類	主な機会	機会の説明	影響度	緊急度	既存の取組み	対応の方向性（目標）
2℃/1.5℃	資源効率	・生産・物流関連のコスト低減	・省エネ設備への更新や生産工程・拠点最適化による設備稼働コストの低減 ・モーダルシフトや新技術等効率配送による物流費の削減	小	高	・搾油機能の最適化に向けた検討開始 ・モーダルシフト等の推進（「エコシップマーク」認定取得）や長距離「スルー配送」見直し	・国内搾油機能の長期的な安定化に向けた拠点最適化 ・配送規格統一に向けた検討や最適航路によるCO <sub>2</sub> 排出・コスト削減 ・再エネ設備の導入 ・バイオマス燃料への切り替え推進と燃料調達先の確保
	エネルギー	・再生可能エネルギーの導入によるCO <sub>2</sub> 削減およびコスト削減	・再生可能エネルギー（太陽光パネル、バイオマスボイラー）の導入推進による排出権取引費用および炭素税負担の削減	小	中	・生産拠点でのオンサイト発電導入 ・生産拠点での省エネ設備導入	
	市場	・環境意識・エシカル消費の高まり（食料危機への対応）	・低炭素商品・サービス・ソリューションの売上拡大 ・環境意識の高まり、エシカル消費の増加、たんばく質危機等によるPBF製品の需要増加による売上拡大	大	中	・長持ち油の開発 ・PBF製品の販売	・更なる長持ち油や紙パック容器製品等環境負荷を低減する製品、サービスの開発継続 ・PBF製品によりたんばく質危機や食の安定供給に貢献 ・テクスチャー素材による、経時劣化の抑制、食感維持によるフードロス削減
	レジリエンス	・社会からのサステナビリティ要求を満たす最適な事業ポートフォリオの実現による信頼獲得  ・BCP対策強化	・省エネ、再生可能エネルギー活用推進によりサステナビリティに適合する最適な事業ポートフォリオの構築実現に伴い、社会からの信頼獲得による売上拡大・株価向上  ・気候変動による自然災害の激甚化等に備えた安定供給体制の確保による、食品の安定供給を通じた社会貢献、企業価値の向上	中	中	・第六期中計にて事業ポートフォリオを変革し、環境負荷低減、社会課題解決型の製品・サービスを拡大  ・BCPの対応 ・当社グループでのリスクマネジメントプロセスの中で、サプライチェーン全体のBCPを策定 ・原材料供給の遅延や停止等に備えた適正在庫の確保と管理、重要原材料の複数購買等の施策を推進	・社会課題の解決につながる製品の更なる拡大 ・バイオ原料確保によるSAF（※5）製造等のバイオマス事業構築に関する検討 ・非可食油原料樹の植林によるCO <sub>2</sub> の固定化、植林を起点としたSAFサプライチェーン構築等の検討 ・サステナビリティ情報の開示拡充  ・主要生産拠点の水害リスク評価を定期的実施 ・その他、レジリエンス強化に向けたBCP対策

※5 SAF: Sustainable Aviation Fuel（持続可能な航空燃料）